つながる すみだ人（びと）

私の好きな すみだ

今月の1枚

「すみだ活気の始まり、鼓動」

【撮影】横野雅久さん

本コーナーへの写真を随時募集しています。詳細は、問い合わせるか、区ホームページをご覧ください。

[問合せ]広報広聴担当 ☎5608－6223

磯貝延子さん（立花在住）

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に、次の方を紹介していただくことで、すみだを愛する人をつないでいきます。

第2回目は、立花在住の磯貝延子さん。生まれも育ちも墨田区の、すみだを知り尽くした方です。

Q. すみだでどのような活動をしていますか？

吾妻橋でアビアントというギャラリーを運営しています。「アビアント」とは、フランス語で「また会いましょう」という意味です。オープンから今まで、400以上の様々な展示を行ってきました。その中でも、すみだならではの企画展が、毎年1月に行う「墨だ！展」と、7月の「うちわと風鈴展」です。「墨田」という地名にかけて名付けた「墨だ！展」は、墨を用いた作品のみを展示しています。

一方、「うちわと風鈴展」は、区内の竹屋さんにご協力いただいてギャラリー内に巡らせた竹に、作家が絵を描いたうちわや風鈴を飾ります。今年で9回目を迎えますが、夏らしさと下町の雰囲気を感じられると毎年好評です。このような地域性のある企画展の開催も、地域に根差したギャラリーアビアントの特徴かもしれません。

Q. すみだで現在の活動を始めたきっかけは何ですか？

このギャラリーは、人のつながりと偶然から生まれました。きっかけは、ある作家の作品を広めるため、ギャラリーをやってみないかという知人からの誘いでした。当初は吾妻橋ではなく向島にて、建物のオーナーの協力の下、スタートしました。ギャラリーコンサートも定期的に行っていて、それを通じて人のつながりが広がりました。移転の際は、ギャラリーを続けるか悩みましたが、「街にギャラリーがあったほうがいい」との思いから、区内で場所を探し、知人の紹介で吾妻橋へ移転したんです。日常とは異なる空間だからか、気持ちの切り替えになるようで、ここをオアシスと呼んでくださる方もいて、やりがいを感じますね。知人の誘いからギャラリーを持ち、知人の紹介や後押しで現在の場所に移転して、今度はそこに人々が集うようになる。このように、人のつながりが強く、連鎖していくのがすみだの地域性なのかなと思います。

ギャラリー入り口

「うちわと風鈴展」
今年は7月4日(水)～14日(土)の開催です。身近なアートを感じに、どうぞお気軽にお越しください！

Q. 磯貝さんは、すみだのどんなところが好きですか？

裏表のない方が多いところですね。そのため、素直に心を開くことができて、すみだはとても心地の良い環境だと思います。それから、おせっかいを含めた下町の温かみでしょうか。ギャラリーの場所が分からず、迷っているお客さんがいたときに、その方とわざわざ一緒に歩いてギャラリーまで来てくださった区民の方もいたんですよ。このギャラリーをきっかけに、区民の方が作品とじかに触れ合うようになり、そこから人のつながりが新たに生まれればいいなと思います。

次回登場してくださるのは・・・

磯貝さんとは、東京マラソンの招致活動で知り合ったという、すみだランRun倶楽部の加藤寿男さんです。
[問合せ]広報広聴担当 ☎5608－6223

夢 明治維新に思いを馳（は）せて

墨田区長 **山本 亨**

隅田川を臨む区役所前のうるおい広場に勝海舟の銅像が完成して15年になります。すみだの地に生まれ育ち、明治維新に大きな足跡を残した郷土の英雄を顕彰し後世に伝えようと、有志の方々が呼びかけ、全国から寄せられた寄付によって銅像が建立（たて）されました。その姿は、海舟最大の偉業と讃（たた）えられる江戸無血開城の頃のものといわれています。

江戸後期の文政6年（1823年）、現在の両国公園（両国四丁目）付近で生まれた海舟は、9歳のとき、剣術の稽古に行く途中で犬に襲われ、命にかかわる傷を負いました。父・小吉は我が子を何とか救おうと、能勢妙見（本所四丁目）で水ごりをして回復を祈った話は有名です。また、海舟は精神鍛錬のために弘福寺（向島五丁目）で禅の修行に励み、その経験がのちに西郷隆盛との交渉に活（い）かされ、江戸無血開城の実現に至ったと伝えられています。

明治維新から今年で150年。この偉業を記念し、墨田区と西郷の銅像がある台東区では、2人にスポットを当てた講演会や銅像・史跡などを巡るバスツアー等を秋に共同で行う予定ですので、ぜひご参加ください。

さて、今年4月、ものづくりの創業支援施設である「センター・オブ・ガレージ」が区内にオープンしました。ベンチャー企業・町工場・大手企業の3者が連携し、それぞれの強みを活かして運営される施設の誕生は、ものづくりの未来を切り拓（ひら）く新たな可能性に満ちています。明治以降、日本の近代産業を支えてきた本区のものづくりが、この施設の開業を機に、さらなる飛躍を遂げることを大いに期待しています。

ものづくりに特化した「センター・オブ・ガレージ」を視察しました。